北海道
足寄郡足寄町
52.12.3

昭和32年5月27日第3種郵便物認可

とかち新聞

主筆　松山明

（本社所在）北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話(5)2551番
（毎月5の日発行）　1カ月300円　1カ年前納の場合3,000円

明年から三ヵ年で完成へ

陸中の統合新校舎

足寄町で最大の鉄筋建設中学校への小利別、中斗満など三中学校の合町一本化の統合新校舎の建設については、町が予定地として確保した陸別小学校の上手教員住宅に中斗満校下から異議が出たために本年着工は見送りとなりました。

しかし今春に入ってようやく設計がついて、明年着工の準備をすすめ、補助、起債の申請から設計の設どりにとりかかっていましたが、二千二日の教育委員会で三度目の設計をまとめて十二月の定例町議会に提出して協議することにしています。

なにしろ町最大の建設事業だけに検討の方は明年から二カ年、体育館や屋外グラウンドなどは三年目にという三カ年計画で完成をめざしていますが、全部を新設しても並式小規模校のよせあつめといった形で、陸別中学校の学校数がふえるわけではないのが建築補助の難点となっていますが、一校で十数名の小規模中学校をいつまでも放っておけない状況にあります。

現場の指揮は誰か

池北三町消防議会

池北三町消防事務組合議会の第二臨時会は二十二日午前十時から足寄町消防本部会議室でひらき（欠席は松下一板議員）会期を一日としてはじめに小林弘道管理者から十月二十三日に足寄町旭町で発生した火災についての行政報告があり、これに対して、

天野時雄氏　消防組織法から考えると、消防団は消防長、消防署が統轄して指揮、監督の下に行動する、今回の火災は鎮火して警戒解除を命じたのはだれか、消防団長か消防署長が判断したのか、その辺が明確でなければ住民の信頼が得られない、消防団の権限、義務を明らかにしたい

鈴木三郎消防長　年月は浅い方が多くの団員をもっており、戦斗に入れば戦術的には団長に主体性がある

天野氏　屋ぶすくないかれ火災消火力がないから隣が延焼して主力をおくのか

鈴木消防長　消防組織法は部分的のもので、組合消防の場合は消防長がイバリておれず、できるだけ仲よくやっている

天野氏　団長が引きあげを命じたのか

鈴木消防長　協議して引きあげたと思う

吉田吉少助氏　管理者はこんな重大問題に一カ月も議会をひらかないのはけしからん本部へ引きあげてから鎮火があったという原因と対策をききたい

大久保氏　鎮火の問題は鎮火の問題だが、二階へあがろうとするのを止めたといわれる

鈴木消防長　出火事務は当日停電しており、油のガスが充満していて爆発したもので、二次火災とは考えていない

大久保氏　残火の問題の不徹底ではないか

鈴木消防長　普通の火災はチロリとした火のなくなるまで残るが、ガス状の珍しい状態で考えられないことだった

大久保氏　専門職である組長以下が消防団を指揮すべきではないか

鈴木消防長　消防法は部分中心で、こうしたところでは組合はやり易いようにスムーズにいっている

大久保氏　わかるが、原因はキチンと明確にしなければ将来問題がおこる

吉田氏　ガスの発生による再火災は止むを得ないようにいわれるが、三十五分残って本部へ帰りつかないうちに爆発した、軽率な判断ではないか、充分反省してもらわねばならない

鈴木消防長　いままでの火事の常識では考えられないものだった

矢掛正信氏　責任者で指揮命令すべきではないか

鈴木消防長　機械的には団長に依存しなければならない場合はどうか

矢掛氏　二次火災の非常などはどうか

小林管理者　企業保険金が支払られ、本人から請求はない

西野一郎氏　消防の罹災の誤りは現法上の権限の義務はあるか、障害を抱いた会議はどうか

鈴木消防長　ないように考えている、こわした場合も最終的決定は裁判となる

などの論議があり、このあと議員の給与改定を主にした一般会計予算補正を議決して午前十一時すぎに閉会しました。

暴れん坊大臣

ニュースを斬る

◆…当選十回でどうにかいうもの、青風会という三木派からの派閥加わりで組織長官という〝仲良大臣〟にありついた本名武氏の場合は、おりからの田中金脈騒ぎでおすか五カ月大臣でおわりました。

◆…しかし中川一郎氏の場合は、このたびの第二次福田内閣の組閣にあたっては、当選五回で最年少の五十二才で農林ポストの農林大臣に起用されました。

◆…中川氏は昭和電工とは自民党内の暴れん坊福田の代表として一日をおかれていて、スキにも貧ん中にもおけない存在。

◆…なにしろ自民党が絶対多数で暇やかなりしころは強行採決にきいしてはたいに腕力を発揮して暴れまわってその荒暴ぶりがとり代議士としては目立つたもので、中川氏が農林としてもっとも苦もなく、これまでの民主政治無視の発言は許されず、飼い猫のようになった形で低姿勢になるを得ないし、一人の農林大臣が変っても自民党の農政に変りはありませんが、中川氏は昭和電工事件で明宜の過失をうけて無治の暴れん坊大臣。

◆…矢野書記官が絶対多数で暇やかなりしころは強行採決にきいしてはたいに腕力を発揮して暴れまわってその荒暴ぶりがとり代議士としては目立つたもので、中川氏が農林としてもっとも苦もなく、これまでの民主政治無視の発言は許されず、飼い猫のようになった形で低姿勢になるを得ないし、一人の農林大臣が変っても自民党の農政に変りはありませんが、中川氏は昭和電工事件で明宜の過失をうけて無治の暴れん坊大臣。

◆…矢野書記官の国会となってはゞ暴れん坊大臣ゞではつとまる筈もなく、これまでの民主政治無視の発言は許されず、飼い猫のようになった形で低姿勢になるを得ないし、一人の農林大臣が変っても自民党の農政に変りはありません。

機種を巡っての紛糾

陸別農協　バルククーラー

おそまきながら第二次農業構造改善事業による切った陸別町農業協同組合（秋山車組合長）では、バルククーラーの導入にあたって十月の理事会で機種をケスダ式に決めたことが問題になって紛糾をおこしています。

これはどこの農協でも部落懇談などで充分に説明してなつとくを得て機種を決定しているのにそれもなく民主的でない、スギタ式は関西メーカーの製品で十勝でははじめてであり、すでに理事のなかではスギタ式を入れている向きもあってこの機種決定には業者との申合わせがあるではないかーなどの憶測も加わって、青年部長がこの決定に反発する事名連動をはじめたものです。

その運動グループは共産党の紫関久氏をともなって十勝支庁へ押しかけて、バルククーラーの機種は一種でなくてもよいとの言質を得たとして、秋山組合長と再三の交渉をすすめているのが現状です。

これに対して農協側としては、昨年七月いらい機種選定の委員会を設けて管内の酪農家の実態を調査した結果、性能や電力消費やアフターサービスや将来の交換の場合も考えて理事会としては一応ケスダ式に集約はしたが決定したわけではないのに、町内酪農家の九割近くが署名に加わり、なかには元役員や町議も入っているのでショックをうけています。

なにしろ全町を二次農に認められたのはようやく十月十三日で、それから強行作業の形で事務処理に追われて、総会懇談会をひらく余裕もない状態だったし、またこうした空気のなかでは遅つて混乱をきたすおそれもあり、実際に機械の入るのは明年夏ごろなので、それまでに充分の説明を得ようとしています。

自己資金で設置した向きは各種の機種ですが、農協の事業の場合は一定の機種が道の指導であり、機種の決定はこんどの問題です。

「百万円委員会」の成果はいかに

小坂山問題など調査

足寄町議会の十月臨時会で設けられた「新商開発に関する調査特別委員会」は委員長に鳴海一郎、副委員長に高橋快夫、委員に矢野茂一、高橋幸、石田富男、大塚正夫、松崎稔、板谷清平の八議員をあげて、千百万円以内という規模の調査活動だけに、その成果が注目されています。

この委員会は、はじめ議会運営委員会において例の三井化学のカプロラク工場の誘致運動の拠点が決定なところから忍呼への調査について委員会へ調査を付託することを決めて本会議ではかったところ鳴海議員らから小坂山問題も調査すべきだとなって範囲がひろがり、特別委員会の設置となったものです。

小坂山となればハイランドの本社のある大阪や神戸や東京のいる京都までとなるので〝百万円委員会〟となったわけですが、委員会としては十二月四日から一週間の予定で鳴海委員長、高橋副委員長、石田、板谷委員の四氏を現地調査に派遣することにしています。

なにしろ小坂山の開発がはじめられた当時は町も議会もほとんど協力体制をとらずにすごして来ていて、ことになってジクヤー産業有限のおりから当分開発の見込みがないとの申し入れがあってからの調査なので開発促進のテコ入れというよりもこれまでハイランドの社長だった高山義雄氏が土地の権利保全のために身内の担保に入れていたり、道路工事をした日本道路が工平代金分を返金分にしている事情などを確かめることになりそうです。

農委会長を交替

足寄

足寄町農業委員会長の鈴木芳雄氏は心臓などの病気で三カ月の療養を要するために十月二十日の委員会で辞意を表明したので、小林町長らが慰留につとめていましたが辞意が固く、この十日の委員会で後任の会長選挙をおこないました。

その結果は

西村勝一氏　一二票
尾西芳男氏　三票
鈴木三也氏　一票
松田敬吉氏　一票

で会長代理だった西村氏が当選、つづいて会長代理の選挙をおこない

岡西民男氏　一二票
松田敬吉氏　六票

で尾西氏が当選しました。

キレイな出処進退

○…この三月の農業委員の改選で、満場一致の形で二度目の会長に選ばれた鈴木芳雄氏が病気から三カ月の療養をするとの診断をうけてアッサリと会長を辞任。

○…氏にも農業委員をやめるわけではなく、会長に平成のある場合のために会長代理をおいているのだから会長をおりなくてもよい小坂町長をはじめ周囲から留任を説得したものの聞きいれなかったもので、ふつうならひとたび手中にした権限はなかなか離さない人が多いなかで、これは珍しく中キレイな出処進退ぶり。

○…このために新会長には四十四才という若さの西村氏に、新会長代理の尾西氏とともに社会党員というところは全道でも珍しい人事。

また交通安全対策で発明

足寄の伊藤警官

昨年は、国道を自動車が通れば突如としてサイレンが鳴り出すという「居眠り運転防止器」を発明した、太刀別警察署交通警察係所属の伊藤規明巡査は、こんどは自動車が進行していく前方のわき道のものかげに、あたかもパトカーが赤色の回転灯をともし出動してきて停車するとうかの装置を発明して、運転者が違法行為に陥ちないように常時監視されているような形で交通安全をはかろうという「イトー式パトライトー」を完成しました。

製作は日農修整工の安久津義人社長があたり、十八日に道本刑事警察課をはじめ各官公庁や交通関係団体の代表など二十余名があつまって、同工場の国道沿いに設置した「イトー式パトライトー」を森署長のスイッチで運転を開始しました。

（上の写真はその風景）

この試作にあたった安久津社長によれば十六万円の経費がかかったそうですが、こんど市販されて大量製造となれば一台十二、三万円程度で市販できる見込みとのことです。

今回の伊藤氏の発明は「居眠り運転防止器」とともに特許庁へ実用新案特許を申請中ですが、現職の交通係警官が職務の体験からつぎつぎと交通安全対策にくふうをこらしている珍らしいことです。